資料４

令和元年７月 29 日　第２回児童健康福祉専門分科会

①子どもの人数と子育ての負担感について

◆子どもの人数と経験の有無

母子世帯の子どもの経験（%）	家族旅行		レジャー		誕生祝い		毎年服等購入		習い事	
	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×
１人	40.2	57.9	50.2	46.0	91.2	7.7	86.2	11.9	39.5	57.9
２人	23.7	72.4	32.3	64.7	87.9	9.5	77.6	20.3	33.6	64.2
３人以上	22.8	77.2	39.1	60.9	82.6	17.4	82.6	17.4	38.0	62.0

※子どもの人数が増えると経験がなくなる傾向にあったのは，「家族旅行」「誕生祝い」で，他の項目は必ずしもそうではなかった

◆子どもの人数と雇用形態

母子世帯の雇用形態（%）	正規雇用	派遣社員	契約社員	パート・アルバイト	会社役員	自営業・家業	その他	不就労	無回答
１人	37.9	5.0	6.5	29.1	0.8	4.6	0.8	10.3	5.0
２人	37.9	3.9	9.1	35.3	0.9	1.3	0.9	4.7	6.0
３人以上	35.9	7.6	4.3	37.0	0.0	1.1	0.0	8.7	5.4

※ほとんどの雇用形態では，子どもの人数と雇用形態の間に明確な関係は見られなかったが，「パート・アルバイト」は子どもが増えるとその割合が多くなる傾向にある

◆子どもの人数と現在の収入への不安

母子世帯の現在の収入への不安（%）	はい（不安）	いいえ（不安でない）	わからない
１人	65.9	11.1	8.4
２人	64.7	12.1	13.4
３人以上	65.2	13.0	10.9

※子どもの人数に関わらず，現在の収入への不安の割合はほぼ変わらなかった

◆子どもの人数と養育費の取り決め

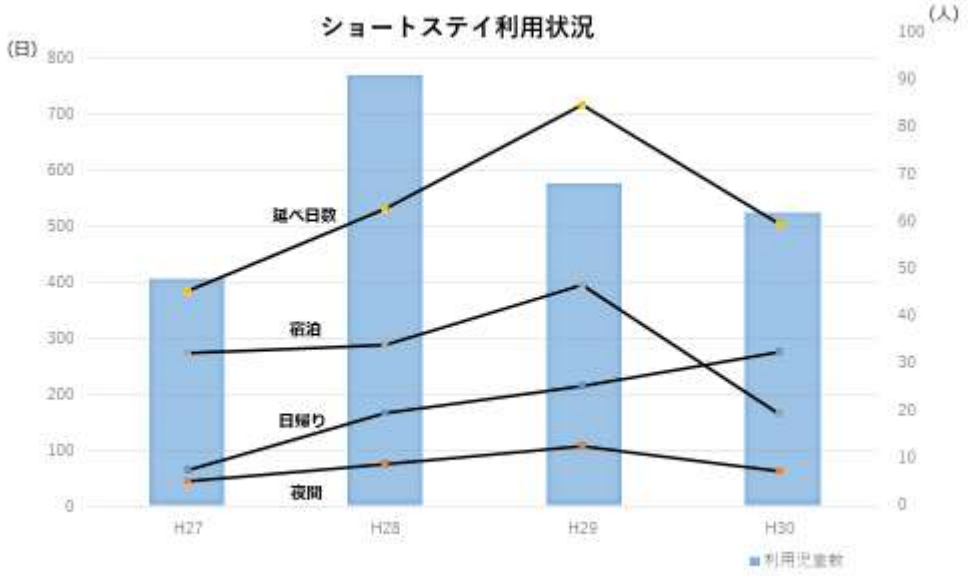
母子世帯の養育費の取り決め（%）	している	していない
１人	44.1	52.9
２人	42.2	53.0
３人以上	44.6	48.9

※子どもの人数に関わらず，養育費の取り決めの割合はほぼ変わらなかった

②ショートステイの利用状況について

◆子育て短期支援事業（ショートステイ）

年度	利用児童数	利用日数			
		日帰り	夜間	宿泊	延べ日数
H27	48 人	65 日	45 日	275 日	385 日
H28	91 人	167 日	76 日	288 日	531 日
H29	68 人	215 日	108 日	395 日	718 日
H30	62 人	277 日	63 日	165 日	505 日



※日帰りでの利用者増加。主な原因は，仕事と出産，育児疲れにある
※宿泊は，平成 29 年度に 395 日と伸びており，一概には減少傾向とは言えない
※延べ日数は，平成 29 年度の 718 日をピークに，平成 30 年度は 500 日台に戻った

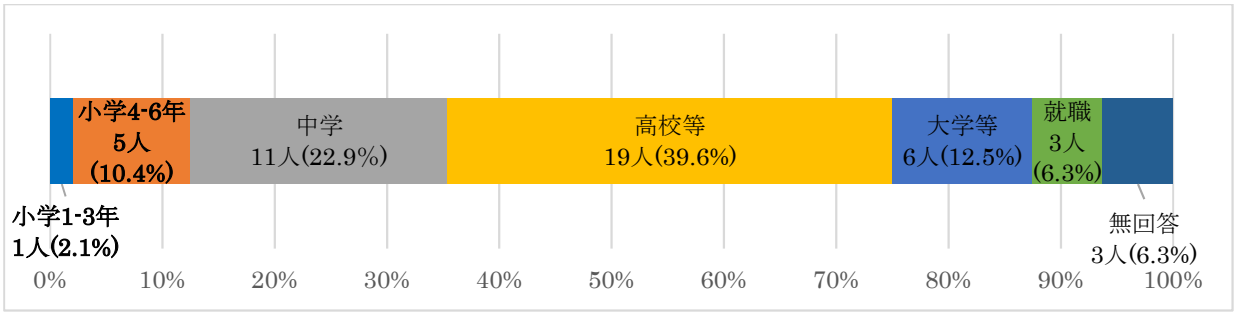
③放課後の子どもの居場所について

◆放課後の子どもの居場所（再掲）

母子世帯 複数回答(%)	こどもルーム	友達と遊ぶ	クラブ・部活	ファミサポ	塾・習い事	親族に預ける	子どもだけで家にいる	家族等と家にいる	アルバイト	その他
帰宅時間午後 8 時以降 (73 世帯)	5.5 (4)	23.3 (17)	17.8 (13)	1.4 (1)	15.1 (11)	12.3 (9)	**37.0** **(27)**	19.2 (14)	9.6 (7)	6.8 (5)

※母親の帰宅時間が午後 8 時以降の世帯で，放課後に「子どもだけで家にいる」世帯は 37.0%（27 世帯・48 人）

◆「子どもだけで家にいる」27 世帯 48 人の子どもの年齢構成



※上記 48 人中，小学 1-3 年の 1 人（児童 A）と小学 4-6 年の 1 人（児童 B）が一人きりで家にいる日がある。小学 4-6 年の 4 人は中学生以上の兄弟姉妹と家にいる状態
※ただし，A は「友達と遊ぶ」，B は「塾・習い事」も選択。常に一人ではない様子
※児童 AB と無回答を除く他の 43 人は，「家族等と家にいる」「友達と遊ぶ」「アルバイト」なども選択しており，完全に一人きりで「子どもだけで家にいる」状態ではない

児童 A の家庭について（ひとり親アンケート調査より）

- 祖母と母の兄弟姉妹と持ち家（母以外の名義）に同居
- 母は柏市内で就労，暮らし向き苦しい（専門・技術職，正規雇用，月給手取り 18 万円）
- 午後 8-10 時に帰宅，仕事に疲れて子育てできない
- 家族旅行・レジャーしていない。誕生祝い・毎年服等購入・習い事（体操）している
- 学校の成績は，あまりよくない。1 日の学習時間 30 分未満
- 母の最終学歴は専修学校・各種学校
- 養育費の取り決めなし。一度も受け取らず，相手の居場所も知らず
- 就学援助利用，児童扶養手当全部支給，高等職業訓練促進給付金を利用したことあり

児童 B の家庭について（ひとり親アンケート調査より）

- 母の年間収入 350-400 万円未満，預貯金 50 万円未満，持ち家，暮らし向き普通
- 事務職，正規雇用，月給手取り 18 万円，午後 8-10 時に帰宅，通勤時間 2 時間超
- 子育てに追われて仕事に支障きたすことは，あまりない
- 子どもの経験は，総じて行っている
- 学校の成績は，まあまあ良好。1 日の学習時間 30 分未満，塾とそろばんに通う
- 母の最終学歴は高校（家庭の都合ですぐに働く必要があった）
- 養育費の取り決めをしており，現在受け取っている。児童扶養手当全部停止